

# 三菱重工 設備用パッケージエアコン 室内機据付説明書

本説明書は、設備用室内機の据付方法を記載しております。

室外ユニットの据付方法、電気配線(室外)及び冷媒管配管工事方法は、室外ユニットの付属の説明書をご覧ください。また、故障診断は、技術資料をご覧ください。本ユニットは必ずバルネルを取付けてご使用ください。

## 安全上のご注意

- 据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
- ここに示した注意事項は、区分けであります。誤った据付けをした時に、死亡や重傷等の重大な結果につながる可能性があるものを【A】、他のもの【B】と記載しています。しかし、【A】欄に記載した事項も、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載しているので、必ず守ってください。

- ここで使う「図記」の意味は右のとおりです。【絶対に行わない】(①)【必ず指示に従い行う】(②)
- 据付工事を完了後、試運転を行って異常がないことを確認するともに、取扱説明書にそって、「安全上のご注意」や正しい使用方法、お手入れの仕方(エコフィルタの清掃、運転操作の仕方、温度調節の方法など)をお客様に説明してください。

この取扱説明書は取扱説明書と共にお客様へ保管していただけます。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書などを渡していただけます。

## △警告

- 据付けは、お買い上げの販売店又は専門業者に依頼する。  
ご自分で据付工事をされない場合、水漏れや漏電、火災、ユニット落下によるケガの原因になります。

- 据付工事は、この取扱説明書に従って確実に行なう。  
据付けに不備があると破裂・ガス漏れや感電・火災などの原因になります。

- 小部屋に据付する場合、一度に冷媒ガスを吸い込むと、限界濃度を超過しないよう注意する。(JRA GL-13)  
限界濃度を超えない対策について、販売店と相談して据付する。万一、冷媒が漏洩して限界濃度を超えると歎吸事故の原因になります。

- 設置工器具等に必ず取扱説明書を使用する。  
当社指定の部品を使用しないと、ユニット落下、水漏れ、火災、感電などの原因になります。

- 作業中に冷媒ガスを漏れさせた場合は、空気を吸入する。  
冷媒ガスに触れることがあると感電や火災などの原因になります。

- 据付けは、工具に十分耐えられる所で実行する。  
強度不足している場合は、ユニットの落下・転倒などにより、ケガの原因になります。

- 台風などの強い風地帯に据付する場合は、設置工事を行なう。  
据付け工事に不備があると、転倒などによる事故の原因になります。

- エアコンの設置や移設の場合、冷媒パイプ内に露冷凍液(410A)以外の空気などを入れない。  
空気などを吸入すると冷媒パイプが異常に膨張し、破裂・カガなどの原因になります。

- 電気工事は電気工事の専門者が行なう。「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及び取扱説明書に従って施工し、必ず専用器具を使用する。

- 電源回路容量を足りずや不備あると感電、火災などの原因になります。

- 配線は、そのルートを使用して電線に接続し、端子接続部・ケーブルの外力が伝わらないように固定する。  
接続や配線が不完全な場合は、漏電や火災などの原因になります。

- 室内ユニット側の配線は、端子台に差し込むように整型し、カバーを確実に取付ける。  
カバーの取付けが不安な場合は、端子接続部の差し込みに注意する。

- 据付け工事完了後、冷媒ガスが漏れていなければ確認する。  
冷媒が室内に流れ、ファンピーチャー・スター、コロナなどの火災に触れる有難ガスがある原因になります。

- 配管、フレイナット、工具はF41専用のものを使用する。  
既存(R22)の配管材を使用すると、極端な露冷凍液による冷媒パイプの破裂などの重大な事故の原因になります。

- フレイナットは、トルクレーティングの方法で締結する。  
フレイナットの締付けは2回ある。長期経年後フレイナットが割れ漏湯の原因になります。

- ドレン管接合口(オフセット)等に有効リスの発生する排水溝に直接入れない。  
室内に毒ガスが侵入し、中毒や酸素欠乏になる恐れがあります。また、室内機を腐食させ、故障や冷媒漏れの原因になります。

- 据付けでは必ず配管を動かす前に接続部を回転させて配管を運搬すると、空気などを吸引し、冷凍サイクル内外に異常圧差にならない。破裂、ケガなどの原因になります。

- ポンプアワーアクセスでは、サービスリリフを開いた後配管を引くときに圧縮機を停止する。  
圧縮機を運転したままサービスリリフ開閉状態で配管をはずすと空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常に高くなります。破裂、ケガなどの原因になります。

- オブショット品類は、必ず当社指定の部品を使用する。また据付けは専門業者に依頼する。  
ご自分で据付けをすると、漏電や火災などの原因になります。

- 改修は許可しない。修理はお業者による販売店に相談する。  
修理不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。

- エアコンを再起動する際は、販売店または専門業者に相談する。  
据付けに不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。

- 室内ユニットの修理・点検作業は「漏電ブレーカーを必ずOFFする」。  
点検・修理にあたって、漏電ブレーカーのままだと、停電およびファッショナル回転によるケガの原因になります。

- バブルガードをしたいため適切に選ぶ。  
機器の過熱、高湿度、高湿潤度、熱れなど、巻き込まれたり、けがや感電によるケガの原因になります。

- 元電源を切り後に電気工事を行なう。  
感電、故障、動作不良の原因になります。

- ユニット側に取り付けられたロープをユニット所定位置に掛け行う。  
据え込み方には不備があるとユニット落下し、死亡や重傷の原因になります。

- 電源接続部にはこの付属品、詰まりがたつきがあると感電がある。火災の原因になります。  
はがりの付属品、詰まりがたつきがあると感電、火災の原因になります。

## △注意

- アース(接地)接続実行する。  
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース(接地)が不完全な場合は、故障や火災の原因になります。

- 漏電遮断器は必ず取付ける。  
漏電遮断器がないと火災や感電の原因になります。

- 正しく容量の遮断器を取付ける。ブレーカー(漏電遮断器・刀形開閉器・開閉器+B種ヒューズ)・配管遮断器を使用する。  
不適な容量のブレーカーを使用すると故障や火災の原因になります。

- 正しく容量のヒューズ以外を使用しない。  
針金や銅線を使用すると感電や火災の原因になります。

- 可燃性ガスの漏れる跡のある場所での設置を行わない。  
万一ガス漏れによる火災の原因になります。

- 腐食性ガス(硫酸濃度など)、可燃性ガス(シガーライターなど)の発生、滞留の可能性のある所、設置する場合は、取扱説明書の取扱いを読みます。

- 工具、接続・メンテナンス作業のための規定のバーナーを確保してください。  
スペースが不足する場合は、運搬場所での転落によるケガの原因になります。

- 洗濯室など、水の漏れる所に対する保証はございません。水が掛かる感電、火災などの原因になります。

- 食品・動物類・精密機器・美術品の保存など特殊用途には使用しない。  
保存物の品質低下などの原因になります。

## △注意

- 病院、通産業業者などの電磁波を発生する機器、高周波が発生する機器の近くでは据付け、使用しない。  
インバータ装置、自家発電機、高周波治療器、無線通信機器の影響によるエアコンの動作や故障の原因になります。エアコン側から医療機器あるいは通信機器へ影響を与え人体の医療行為を妨げたり、映像放送の乱れや音楽等の原因になります。

- 照射日光の当たる所にモニタを設置しない。  
モニタの画面に直接日光が当たると、映像が見えなくなることがあります。

- 次の場所への据付けは避ける。  
・可燃性ガスの漏れる跡がある所  
・硫黄系化合物、塗装系ガス(酸・アセチル・アミノなど)  
・カーボン繊維や金属粉、ハウダーやが浮遊する所  
・油の蒸氣や蒸気など(所)  
・車両・船舶等移動するものの設置  
・化成品・特殊なスプレーを噴射して使用する所  
・積荷の多い所  
・標高1000m以上の所  
性能を保てない場合で、部品が変形、破損したりする原因になるとあります。

- モニタの設置や運搬の際には、以下の機器に接続する。  
・電気工作物の接続  
・強度不足の場合は、モニタを設置する所  
・ワイヤー接続の場合は、受光部・直接太陽光や強光が当たらない所  
・高周波が発生する機器に接続する所  
・ドレンの排水が止められない所

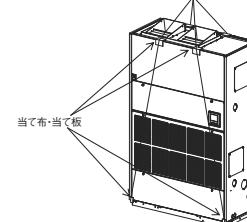
- ここで使う「図記」の意味は右のとおりです。【絶対に行わない】(①)【必ず指示に従い行う】(②)

- 据付工事を完了後、試運転を行って異常がないことを確認するともに、取扱説明書にそって、「安全上のご注意」や正しい使用方法、お手入れの仕方(エコフィルタの清掃、運転操作の仕方、温度調節の方法などを)をお客様に説明してください。

この取扱説明書は取扱説明書と共にお客様へ保管していただけます。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書などを渡していただけます。

## ②運搬・搬入

- 搬入経路を決めて、出来るだけ梱包状態のまま搬入位置近くまで搬入してください。
- 吊り上げる場合は、梱包状態のままロープをかけるが、図のように当て板、当て布で室内機を傷つけないように保護し、2本ロープにて固定してください。
- ユニックとロープの接触面は当て板、当て布を沿えて傷つかないようにしてください。



## ③据付場所の選定と据付

1. 据付場所は、下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。

- 直風式は、温風でも温風でも十分に選べる所。
- 据付・サービス時の作業スペースが確保出来る所。
- ドレン排水が確実に出来る所。ドレン勾配のとれる所。
- 吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。
- 浸透対策のない所。
- 周囲の露点が28°C以下、相対湿度80%以下の所。

- 本ユニットはJIS露付条件にて試験を行い、問題のないことを確認しております。室内機周囲

囲いで28°C以上の高湿度露氷の状態で運転する所では滴が落ちるおそれがあります。

そのような条件下で使用する可能性がある場合は、室内機本体の全て及び配管、ドレン配管にさらに10~20mmの断熱材を取付けてください。

- レバーベルト、ラジаторより1m以上離れた所。(映像の乱れや雑音が生じことがあります。)
- 調理器具が発する熱の影響を受けない所。
- 油・粉・蒸気等を直接吸い込まない所。
- ユニットの上に物を置かないようにしてください。
2. 据付ようとする場所はユニット重量に耐えることができ、水平な場所としてください。危険と思われましたら、板、折板等で補強して据付作業を行ってください。
3. 点検メンテナンスのためのスペースを確保してください。
- (mm)
- 
- ※(1)内の設定条件では、熱交換セクションの交換作業等をする場合、A寸法で1000mm程度確保が必要があります。作業時は、ユニット移動等に対応お願いいたします。
- ※(2)の設定条件では、ファンデッキの交換や熱交換洗浄作業等をする場合、C寸法で500mm程度確保が必要があります。作業時は、ユニット移動等で対応お願いいたします。
- 図は標準状態での必要スペースを示しています。後ろ吸いみやOA取り込み等の場合は、ダクト大きさに応じてスペースを確保してください。
4. 固定金具と床面を固定してください。
- 固定ボルトの位置は下図の様になっています。
- 
- (mm)
- | 機種        | a    | b   | C          |
|-----------|------|-----|------------|
| P140      | 837  | 300 | 500(100)以上 |
| P224, 280 | 1137 | 300 | 500(100)以上 |
- ※(1)内の設定条件では、熱交換セクションの交換作業等をする場合、A寸法で1000mm程度確保が必要あります。作業時は、ユニット移動等に対応お願いいたします。
- ※(2)の設定条件では、ファンデッキの交換や熱交換洗浄作業等をする場合、C寸法で500mm程度確保が必要あります。作業時は、ユニット移動等で対応お願いいたします。
- 図は標準状態での必要スペースを示しています。後ろ吸いみやOA取り込み等の場合は、ダクト大きさに応じてスペースを確保してください。
4. モータの交換
- モータは重量物ですので扱いに注意してください。
- モータ交換をする場合は、図のように室内機前後にモータに手をかけて、モータを上に台に置き、モータを交換してください。
- (参考)モータ重量
- | 機種       | 重量    |
|----------|-------|
| P140,224 | 約13kg |
| P280     | 約23kg |
- ファンの交換する場合は、ファンデッキを本体から取り外して作業してください。ファンデッキを取り外すには、上部ボルトとアリバネ上部のねじを取り外す必要があります。
- 重量物のため扱いに注意し、二人以上で作業してください。
- モータの交換
- モータは重量物ですので扱いに注意してください。
- モータ交換をする場合は、図のように室内機前後にモータに手をかけて、モータを上に台に置き、モータを交換してください。
- (参考)モータ重量
- | 機種   | 重量    |
|------|-------|
| P140 | 約23kg |
| P224 | 約56kg |
| P280 | 約66kg |
- ファンの交換する場合は、ファンデッキを本体から取り外して作業してください。ファンデッキを取り外すには、上部ボルトとアリバネ上部のねじを取り外す必要があります。
- 重量物のため扱いに注意し、二人以上で作業してください。
- モータの交換
- モータは重量物ですので扱いに注意してください。
- モータ交換をする場合は、図のように室内機前後にモータに手をかけて、モータを上に台に置き、モータを交換してください。
- (参考)ファンデッキ重量
- | 機種   | 重量    |
|------|-------|
| P140 | 約23kg |
| P224 | 約56kg |
| P280 | 約66kg |
- ファンデッキを本体から取り外すには、上部ボルトとアリバネ上部のねじを取り外す必要があります。
- 重量物のため扱いに注意し、二人以上で作業してください。
- モータの交換
- モータは重量物ですので扱いに注意してください。
- モータ交換をする場合は、図のように室内機前後にモータに手をかけて、モータを上に台に置き、モータを交換してください。
- (参考)モータ重量
- | 機種   | 重量    |
|------|-------|
| P140 | 約23kg |
| P224 | 約56kg |
| P280 | 約66kg |
- ファンデッキを本体から取り外すには、上部ボルトとアリバネ上部のねじを取り外す必要があります。
- 重量物のため扱いに注意し、二人以上で作業してください。
- モータの交換
- モータは重量物ですので扱いに注意してください。
- モータ交換をする場合は、図のように室内機前後にモータに手をかけて、モータを上に台に置き、モータを交換してください。
- (参考)モータ重量
- | 機種   | 重量    |
|------|-------|
| P140 | 約23kg |
| P224 | 約56kg |
| P280 | 約66kg |
- ファンデッキを本体から取り外すには、上部ボルトとアリバネ上部のねじを取り外す必要があります。
- 重量物のため扱いに注意し、二人以上で作業してください。
- モータの交換
- モータは重量物ですので扱いに注意してください。
- モータ交換をする場合は、図のように室内機前後にモータに手をかけて、モータを上に台に置き、モータを交換してください。
- (参考)モータ重量
- | 機種   | 重量    |
|------|-------|
| P140 | 約23kg |
| P224 | 約56kg |
| P280 | 約66kg |
- ファンデッキを本体から取り外すには、上部ボルトとアリバネ上部のねじを取り外す必要があります。
- 重量物のため扱いに注意し、二人以上で作業してください。
- モータの交換
- モータは重量物ですので扱いに注意してください。
- モータ交換をする場合は、図のように室内機前後にモータに手をかけて、モータを上に台に置き、モータを交換してください。
- (参考)モータ重量
- | 機種   | 重量    |
|------|-------|
| P140 | 約23kg |
| P224 | 約56kg |
| P280 | 約66kg |

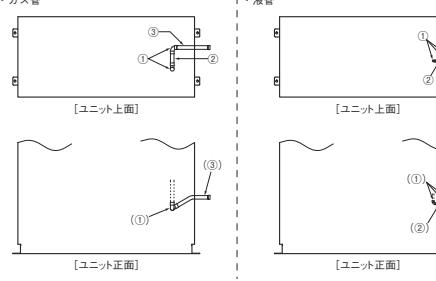
## ⑥冷媒配管工事

### 冷媒配管工事時の注意事項

- 配管は下記品質のものをご使用ください。(材質)リン酸銅継目配管 φ15.88JIS:C1220T,JIS H3300 φ19.05以上:C1220T-1/JIS H3300
- 配管の曲げは出来るだけ大きな半径(配管径の4倍以上)で行ってください。
- 配管の曲げを何回も行なわないでください。
- 配管は、ねじったり・つぶしたりしないでください。
- 配管内にゴミ・切削・水分が混入しないように施工してください。
- 本機はR410Aを使用してください。
- 室外機の搬送説明書に従って行ってください。
- 1. エアフィルタを取り外してください。ろう付けの火災が当たるとフィルタを溶かしてしまいます。
- 2. ドレンパン・樹脂部品・断熱材・膨張弁による付けの火災が当たらぬよう、当て板などをして保護してください。
- 3. ガス管・液管の管端部のつぶし配管を取り外してください。
- 4. 付帯管と配管の接続はろう付けで行ってください。配管工事に必要となる現地配管の長さおよびサイズは表に従い準備してください。各緒手と配管の接続はろう付けで行ってください。
- 冷媒配管は室内機内側が下りとなるよう勾配をつけてください。室内機外側に下り勾配が付いていないと、室内機内部で発生した結露水が室外機外側に漏れ出す原因となります。
- ろう付けは必ず窒素ガスを流しながら行ってください。窒素ガスを流さないとき量の異物(化成被膜)が生成され、キャビラリーチューブ又は膨張弁詰まりによる致命的故障の原因となります。

### [右抜き配管の場合]

#### ●冷媒配管接続位置

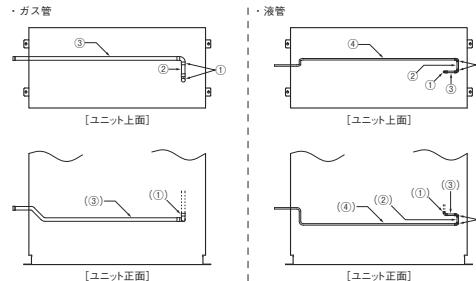


#### ●現地手配配管および緒手

	ガス管	液管
P140	① 緒手(φ15.88用)×2個	① 緒手(φ9.52用)×3個
	② 104 配管(φ15.88用)×1個	② 63 配管(φ9.52用)×各1個
	③ 745 配管(φ15.88用)×1個	④ 830 配管(φ9.52用)×1個
P224 P280	① 緒手(φ22.22用)×2個	① 緒手(φ9.52用)×3個
	② 91 配管(φ22.22用)×1個	② 77.2 配管(φ9.52用)×各1個
	③ P224: 内径φ15.88 P280: 内径φ22.22 1038 配管(φ22.22用)×1個	④ 63 配管(φ9.52用)×1個

### [左抜き配管の場合]

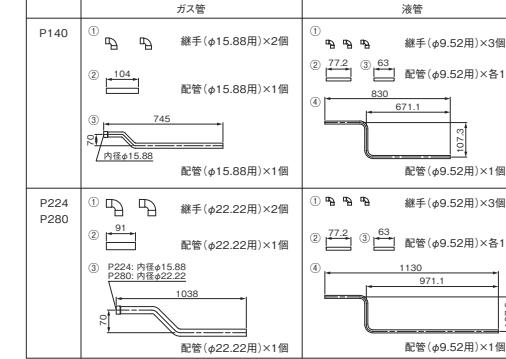
#### ●冷媒配管接続位置



#### ●現地手配配管および緒手

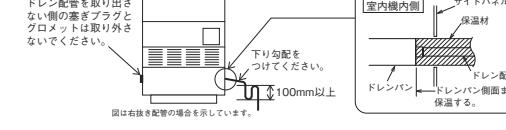
	ガス管	液管
P140	① 緒手(φ15.88用)×2個	① 緒手(φ9.52用)×3個
	② 104 配管(φ15.88用)×1個	② 63 配管(φ9.52用)×各1個
	③ 745 [付属配管]	④ 148 配管(φ9.52用)×各1個
P224 P280	① 緒手(φ22.22用)×2個	① 緒手(φ9.52用)×3個
	② 91 配管(φ22.22用)×1個	② 63 配管(φ9.52用)×各1個
	③ [付属配管]	④ 148 配管(φ9.52用)×各1個

### ●現地手配配管および緒手



5. ガス側配管・液側配管ともに断熱を行ってください。断熱材厚さは20mm以上としてください。断熱はユニット内部の緒手まで行ってください。  
6. 配管取り出し部より埃・小動物の侵入を防ぐため、バテなど(現地手配)で配管取り出し口の隙間を埋めてください。

### ⑥ドレン配管工事



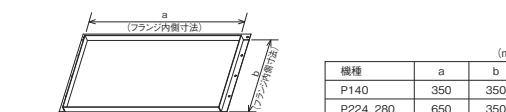
- ドレン配管は必ず保護してください。保温は室内機内のドレンパン側面のソケット部まで行ってください。配管工事に不備があると、水を漏らし家財を濡らす原因となります。
- ドレン配管は、室内機外側に下り勾配(1/50~1/100)と、100mm以上の水封が作れるトラップを設けてください。(奥気止め、逆流防止の為)
- ドレン配管を取り出さない側のドレン接続に塞ぎプラグを取り付けて、塞ぎプラグ表面を保温暖して下さい。その後、外側穴にグローメットを取り付けてください。
- 配管施工後、排水が良好に行なわれていることを、水漏れのないことをご確認ください。
- ドレン配管の出口は臭氣の発生する恐れのない場所に施工してください。
- ドレンパンは定期的に清掃してください。
- ドレン配管サスは途切れで細くしないでください。またドレン配管が集合する場合は十分な大きさとしてください。

#### △ 警 告

ドレン配管は、確黄系ガス及び可燃性ガスの発生する排水溝に直接入れない。室内に有害ガス及び可燃性ガスが侵入する恐れがあります。

### ⑦ダクト工事

1. ダクト接続
  - 図に示すダクトフランジが室内機上部に取り付けられています。接続するダクトに合わせて、側面に穴を開けて接続してください。
  - 室内機とダクト、ダクトのサポート等は必要に応じて防振キャップ、防振ゴム等により接続・支持し振動の伝播及び騒音の増幅等にならないよう施工してください。
  - ダクト接続後、ダクトフランジが露出している部分は断熱を施してください。



### ⑧電気配線工事

電気配線工事は電気設備技術基準及び内線規程に従い、電力会社の認定工事店で行ってください。

#### 安全上での注意

- 作業前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しく作業してください。  
安全のため必ず守りください。
- 誤った作業、行為をしたときにいる者や損害報告「▲注意」と「▲警告」に区分し、お守りいただく内容を「図記号」を使用説明していますので、必ずお守りください。
- ▲警告 「▲注意」の意味
- △警告 守らないと、死亡または重大な障害にいたる危険性がある事項について説明しています。
- △注意 守らないと、傷害や物的損害ある事項について説明しています。

- ここで使われる「図記号」の意味は右のとおりです。 ( )絶対に行わない ( )必ず指示に従い行う
- 配のことを必ず守ってください。守らないときは、感電による火災、感電又は過熱、ショートによる火災のおそれがあります。

#### △ 警 告

- 電気工事は電気工事士の資格のある者が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及び電気配線工事規則に基づいて、必ず専用工具を使用する。  
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災の原因になります。
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないよう固定する。  
接続固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。
- 室内内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。  
カバーの取付けが不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災や感電の原因になります。
- 別名は、必ず当社指定の部品を使用する。また、取付けは専門業者に依頼する。  
ご自分で取付けをされ、不備があると、水漏れや感電、火災などの原因になります。
- 改修は絶対にしない。また、修理はお買取上げの販売店に相談する。  
修理は不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。
- エアコンを移動再設置する場合、販売店または専門業者に相談する。  
修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。
- 室内ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカー」を必ずOFFにする。  
点検・修理にあたって、電源ブレーカーがONのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。
- 元電源を切った後に電気工事をする。  
感電、故障や動作不良の原因になります。

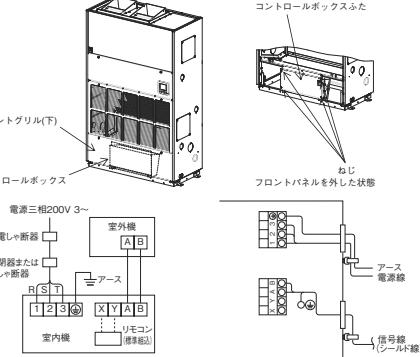
#### △ 注意

- アース(接地)を確実に実行する。  
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。
- 電源は必ず断路器遮断器(高調波対応品)を取付ける。  
漏電遮断器が取付けられていないと感電や火災の原因になります。
- 正しい容量の遮断器を取付けること。  
不適な容量のブレーカーを使用すると故障や火災の原因になります。
- 正しく容量のブレーカーを使用しない。
- 電源回路は、電流容量に合った規格品の配線を使用する。  
漏電遮断器が取付けられていないと感電や火災の原因になります。
- 室内に接続端子および電源端子間に単線および複数の線を併用しない。  
また、異なる2つの単線または複数の線を併用しない。  
端子とのねじ込みや差込部不適合で生じ、発煙・発火の原因になります。
- 連絡停止後、すぐに電源を切らない。  
必ず5分以上待ってください。水漏れや故障の原因になります。
- 電源ブレーカーによるアコムの通電や遮断をしない。  
火災や水漏れの原因になります。
- 電源線の接続を間違え接続しますと、基板が焼損してしまう。

#### Ⓐ 電源・室内外接続線

コントロールボックスはインレットグリルを外したユニット下部にあります。  
コントロールボックスのふたを外し、電源線・アース・信号線を接続してください。

電源線・アース・信号線を接続する際は、必ずコントロールボックスに装着されたバンドに通してください。



### 電源仕様

室内機	漏電遮断器(地絡・過負荷・短絡保護兼用)	ヒューズ付開閉器(A)	配線用遮断器(A)
標準機 (ASVP)	オールフレッシュ機 (ASVP-F)	定格電流 (mA) 15	感電電流 (mA) 30

- 漏電遮断器を使用する場合は、地絡・過負荷・短絡保護兼用タイプを使用してください。
- 地盤保護専用のものを選定する場合は、ヒューズ付き開閉器または配線用遮断器を組みあわせて使用してください。

### 配線仕様

室内機	電源用配線太さ (mm <sup>2</sup> )	配線こう長 (m)	信号線太さ (mm <sup>2</sup> )	アース線太さ (mm <sup>2</sup> )
P140,P224,P280	P224,P280	2.0	38	0.75×2本 (シールド線)
P280		2.0	21	2.0

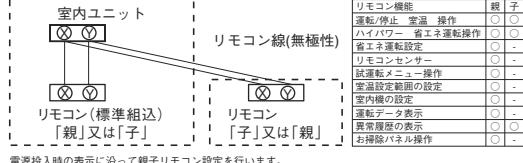
- 電気配線は、電源配線接続口より連絡接続口より信号線を取り除くください。
- 外板貴賓部は、配線保護と虫・小動物の侵入を防ぐため、付属のゴムグローブを取り付けください。
- グローブはカッターやツイ等で切り込みを入れて配線を通してください。

\*各機種により、(大)または(小)のいずれか1種余ります。

### Ⓑ リモコン

室内ユニット1台は1グループに対して最大2個までのリモコンを接続できます。

片側が親リモコン、反対側が子リモコンになります。リモコンは、親・子で操作できる範囲が異なります。



電源投入時の表示に沿って親子リモコン設定を行います。

親子入力画面を表示し、(親)[子]どちらをタッチしてください。

ecoタッチリモコン2個を親子接続する場合は、1個目を[親]で設定開始すると2個目は自動で[子]になります。

### Ⓒ アドレス設定

アドレス設定は、手動アドレス設定のみです。

- アドレス設定はSW1, 2で室内アドレスをSW3, 4で室外アドレスを設定します。

詳細は、室内機接続説明書を参照してください。

### Ⓓ 制御の切換

●室内ユニットの制御内容を下記方法にて切替可能です。

スイッチNo.	制御内容
SW1, SW2	室内アドレス(10位)、室内アドレス(1位)
SW3, SW4	室外アドレス(10位)、室外アドレス(1位)
SW5-1	ON 予設定
SW5-2	OFF 親設定
SW6-1	OFF
SW6-2	ON 初期設定を変更しないでください。
SW6-3	ON
SW6-4	ON
SW7-1	ON 連絡用遮断器試運転
SW7-2	OFF 通常運転
SW7-3	ON 吹出温度制御モード(吹出)
SW7-4	OFF 吹出温度制御有効
J1	ON 通常運転
	OFF 総括基盤接続

### Ⓔ 注意点

#### 電源ON後1回目の冷房運転時の注意点

電源ON時の1回目の冷房時に、保護制御により室内ファンが停止する事がありますが、そのまま運転を続けてください。保護制御完了後(数十秒~数分)にファンが回ります。

#### リモコンによる冷房試運転の注意点

オールフレッシュ機では、外温20℃以下となるような霧氷の場合は、リモコンによる冷房試運転は圧縮機保護のためできません。室外機ディップスイッチによる暖房試運転を行ってください。

#### お知らせ パスワード初期化

管理者パスワード(日常使用する設定用)と

サービスパスワード(据付・試運転・メンテナンス用)があります。

○管理者パスワードの初期値は、00000。設定変更ができます(取扱説明書参照)。

管理者パスワードを忘れた場合は、管理者パスワード入力画面でハイパー

【省エネ】ボタンを同時に5秒長押すとパスワードは初期化されます。

○サービスパスワードは、9999で、設定変更ができません。

管理者パスワード入力の時、サービスパスワードでも受けられます。

